

安全標識記号を策定する ISO 国際会議へ出席 ニッセンケン 防災安全グループとして参加しました

当財団は公益社団法人日本保安用品協会（JSAA）を通じ、安全標識図記号の国際ルールを決める《ISO TC 145/SC2》に参画し、規格策定に全面協力をしています。現在、経済産業省と連携し、日本から「JIS Z 9098 災害種別避難誘導標識システム Hazard specific evacuation guidance sign system」の ISO 化提案を行っており、5月28日から6月2日にかけてオランダ・デルフト市で開催された ISO 国際会議に日本代表団として防災・安全評価グループの井上典明が参加しました。



TC145 会議が行われたオランダ規格協会本部（同協会 ホームページより）

国際会議の内容

TC 145 は案内標識や注意ラベル等といった安全標識の国際標準を策定するための専門委員会です。現在当財団では、災害や事故から国民の安全を守る観点から、*反射材・蓄光素材等の視認性について、繊維製品にとどまらず幅広い用途・製品の評価*を行っています。

今回の国際会議の会場は、オランダ規格協会本部。JIS を制定する日本工業標準調査会にあたる組織で、オランダの公的機関です。《ISO/TC 145》には 12 カ国から 30 名近いエキスパート（委員）が参加し、様々な議題について検討しました。

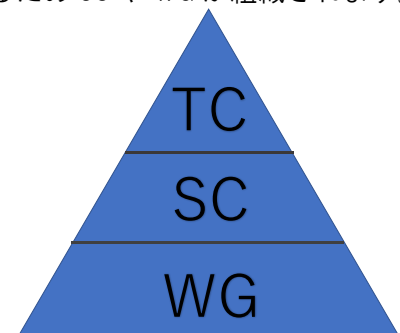
とりわけ、SC では日本代表団が JIS Z 9098 の ISO 化提案を行い、そのための WG を新たに立ち上げることが決議されました。なお、この WG コンビーナ（代表）には、日本国内委員会委員長の中村祐二氏が就任しています。

また従来からある WG では、ISO 7010 グラフィカルシンボルや公共案内用図記号に関する検討を行いました。

ISO 組織の解説

TC = 専門委員会 SC = 分科委員会
WG = 作業グループ

組織の階層をおおまかに示すと、TC > SC > WG という構成で、発効する ISO の具体的な案をとりまとめ、最終決定するのが TC。そして必要に応じ、より具体的かつ詳細な内容について検討するため SC や WG が組織されます。



ISO 化はいつ？

今後の検討の推移や各種手続き等から予測すると、*JIS Z 9098* が ISO 化されるのはおおむね3～4年後くらいと思われます。当財団としては、この国際ルールが早期に ISO 化されるよう協力してまいります。ぜひご注目ください。

JIS Z 9098 災害種別避難誘導標識システムについて

下記リンクの当財団ホームページで分かりやすく解説しています。

<http://nissenken.or.jp/news/pdf/20160418.pdf>



ISO/TC 145 のメンバー(前列、右から5番目が当財団・井上)



ニッセンケン 防災・安全評価グループ 井上典明

「今回、日本からの国際規格提案が一步前進しました。今後、ますます国内委員としての活動が重要となります。今回の国際会議への出席を足掛かりに、国が推進する国際会議等派遣事業に積極的に参加するとともに、ニッセンケンが国際貢献や公益な面での事業参画を行っていることを広く皆さんに知っていただきたいです」

ご質問等ございましたら お気軽にお問合せください

■防災・安全評価グループ 東京

〒124-0012 東京都葛飾区立石 4-2-8 Tel: 03-5875-6055 / bosai_zenen@nissenken.or.jp

■防災・安全評価グループ 大阪

〒535-0022 大阪府大阪市旭区新森 1-5-20 Tel: 06-6957-1101 / bosai_zenen@nissenken.or.jp